

気象および移植時期が水稲‘コシヒカリ’の乳白粒発生に及ぼす影響

月森弘

摘要

島根県における水稲‘コシヒカリ’の乳白粒発生に及ぼす気象および移植時期の影響を検討した。

1. 乳白粒は、出穂後 20 日間の気温と高い有意な正の相関を示した。特に平均最低気温との相関が高く、乳白粒率 6 % となる限界気温は 22.5℃であった。
2. 遅植えでは、早植えに比べ登熟期の気温が低下すること、籾数に対するわら重の比率が高まることにより、乳白粒の発生が減少すると考えられた。
3. 乳白粒を 6 % 以下とする m² 当たり籾数の上限は、早植えでは 25,000 粒であったが、遅植えでは 28,000 粒であった。良質米の生産のためには、籾数の上限を越えないように穂肥の窒素施用量を決定する必要がある。